

ひとを育てる活動

CMIP 経由で支援の奨学生・現況報告から

前期末の試験が終了したばかりの現地から、奨学生の現況報告が届きました。今回は、担任のコメントが加わるなど、以前より子どもの状況がよくわかる内容です。CMIP 事務局スタッフが兼務していた奨学生の管理を、教会ボランティアだったロウエルさんにモニターの専任をお願いしたのがよかったようです。子どもたちが通う学校を定期的に訪ねて、担任に授業料や学校経費を手渡し、成績や健康状態など確かめるのがその主な任務ですが、ミアソン寮の 10 名を除いたハイスクール生 15 名と小学生 27 名は、親元から地域の CMIP 校や公立に通っていて、数えたら 25 校に亘りました。中には、ナブルのように往復 2 日かかるところもあります。私たちが負担するわずかな手当で、これらの定期学校訪問を黙々とこなして下さるロウエルさんに感謝しています。なお、ノビシエート寮のカレッジ奨学生 13 名については、おもに事務局スタッフが管理し、奨学金は本人に手渡しています。

以下、本号に同封して、支援会員にお届けする現況報告の中から、3 名についてご紹介させていただきます。



☆チャーミー・ユバさん
ナブル・カマガヤ小 3 年
前期末試験平均点 83 点
担任のコメント：頼りになる生徒。クラスメイトや担任の手伝いに熱心で、出席率も良く活動にも積極的です。

☆レアリン・ラルムさん
ルンバディドゥ公立小 3 年
前期末試験結果は報告なし。
担任からこしばらく欠席と聞いて、自宅を訪ね、父親に確認したところ、デング熱でジェネラルサントス病院に入院中とのこと (10/7 現在)



☆ダニロ・バンドゥリ君
GFI カレッジ 4 年、前期成績は未発表。
担任のコメント：3 年生の時から担任をしています。特に必須科目の成績が上がっています。このままやる気が持続できれば良い結果を得られるし、クラスメイトにも良い刺激になると思います。

ー給食再開しました！ーブラクール近況よりー

毎年 2、3 名を対象としているあしながカレッジ奨学金、今年の奨学生はボランティアナさん一人のため、あしなが会費の一部は、中断していた小学校の給食支援に充当させていただきました。月、水、金には、子どもたちは野菜と薪を持参し、母親たちは当番制で給食準備にあたっています。欠席や早退が大幅に減ったという嬉しい報告がありました。

後期から、学生アパートに引っ越しのカレッジ生

今年 7 月、教育学博士の肩書きもあるメリトン神父が CMIP ディレクターに就任しました。ほどなく事務局のチャリスさんから、ノビシエート寮のカレッジ生 13 名は、11 月の後期授業の始業までに、それぞれ学生アパートを見つけて引っ越すことになったという連絡が入りました。寡黙な神父ですが、大分前に、寮の増設を提案したら、親は子どもの教育にもっと責任を持つべきで、寮はよくないと反論されたことがあります。

最近の家賃 (月額) 相場を事務局に聞いてみました。一人 1,000 ペソ (約 2,400 円) で、シェアしても安くならないとのこと。私たちの年 3 万ペソ (約 7 万円) のカレッジ奨学金の増額予定はなく、後期から、親の負担が大分増えることになります。

しかし、奨学生の 8 割が学ぶ教育学部の場合、卒業後、教師国家試験 (LET) に合格すれば、親たちの平均年収を超える月給をもらえる公立校の教師になれます。この特典の大きさを考えて、親もともに頑張してほしいという考え方は間違っていない。寮の場合にも、月額 100 ペソの親の負担はありましたが、バナナや根菜類の物納でも許されていました。

医師を目指しているジェニー、あと数カ月で卒業のカルメラ、ダニロの 2 名を含めて、新しい環境でも、互いに支え合って、学業にまい進してほしいと思っています。



住みなれた男子寮 (右)、食堂 (左) を背にしたカレッジ生

奨学生・短信

*ダバオの医大 2 年のアンさん、しばらく音信がなく、学業面で悩みがあるのではと懸念していたところ、公立小勤務の父親が脳梗塞で入院していたことがわかりました。職場復帰できない父親に代わり、レイクセブ町長がアンの子供生活費支援を申し出たそうです。授業料等は引き続き HANDS 会員が支えて下さいます。

*JOFPA 基金の看護学生ジョハラとモナリサの 2 名は、ブラコン村の母親識字教室の講師を務め、バロンギスでは血液型検査を手伝うなど、PIHS のスタッフを支えています。 (関連記事 P4 右欄)